



令和6年度 学校評価書

■学校教育目標

学校名 北海道留辺蘂高等学校

学校関係者

学校評議員

5名

優れた教育機会を提供し、社会で自立し共生する力を育む

【自己評価の適切さ】

- A 適切な評価である
B ほぼ適切な評価である
C やや不適切な評価である
D 不適切な評価である

【改善に向けた取組の適切さ】

- A 十分な効果が期待できる
B ほぼ十分な効果が期待できる
C あまり効果が期待できない
D 全く効果は期待できない

1 育成を目指す資質・能力に関する方針

- (1) 基本的な生活習慣を確立し、健康・安全で活力ある生活を送る基礎力
(2) 学ぶことや働くことの意義を理解し、自ら学び考える探究力
(3) 自己に与えられた役割を理解し、責任を持って果たす実践力
(4) 自己や他者のかけがえのなさを理解し、協働して課題の解決を図る人間力

2 指導上の重点事項

- (1) 基礎的・基本的な学力の確実な定着を図る。
(2) 総合学科の特色を生かし、主体性を育む指導の充実を図る。
(3) 教育活動全体を通してSDGsの視点を取り入れ、教科の枠を越えた指導の充実を図る。
(4) 他者を尊重し、協力・協働しながら課題を解決する能力の育成を図る。
(5) 「地域の学校」として各機関との連携を強化し、自己有用感・達成感の向上を図る。
(6) ダイバーシティ留辺蘂高校として職員の英知を集結した学校経営を図る。

3 自己評価結果及び学校関係者評価【A：十分である B：おおむね十分である C：やや不十分である D：不十分である】

A (4.0~3.5)、B (3.4~2.5)、C (2.4~1.5)、D (1.4~1.0) ※A=4 B=3 C=2 D=1で換算

領域	重点事項	今年度の目標	目標達成のための評価の観点	自己評価		分掌等での次年度方策	学校関係者評価	
				取組の適切さ	達成状況		改善・充実の方策	自己評価の適切さ
教育活動	学習指導	1 基礎学習の発展充実	①基礎学力向上を目指した基礎学習等の取組を継続し、より充実させる。	B	B	■進学や就職という具体的な目標と関連付けながら、生徒の学習意欲を高める。	B	B
		2 コミュニケーション能力の獲得を目指した学習活動の展開	②各教科、分掌、年次等様々な立場から学習の動機づけに積極的に努め、基礎的学習・発展的学習への意欲喚起を図る。	B	B	■SSTや探究活動等を通して、協働的な学びの場面を多く設定することで、生徒の学びを深めていく。	B	B
		3 SDGsを基軸として主体的に学ぶ指導の充実	③キャリア教育やSDGsの理念を十分に理解し、それらに基づく授業を組織的、体系的に実践する。	B	B	■授業の中でSDGsアイコンを活用するなど、授業との結びつきが分かるような工夫を行う。	B	B
		4 評価方法の工夫、改善	④教科・科目で生徒のどのような力を伸ばそうとするのかをより明確にした指導と観点別評価を推進する。各教科毎に見直し、改善を図るとともに全体で共有する。	B	B	■日頃から授業での成果と課題を意識し、授業改善に努める。また、各教科での指導や観点別評価について、教員間で情報交換を行う。	B	B
		5 生きる力としての学力の獲得	⑤全教職員が共通して、生徒が安心して学習に取り組むことのできる授業を行う。	A	B	■授業規律の徹底を教員が再確認し、授業に臨むよう心がける。	A	B
	学校関係者の意見		○授業の中で生徒の疑問や発言をいかした授業の充実をはかる。 ○1時間の授業の自己評価を生かすことを大事にしていく。 ○デジタルを使用したよさと弱点を考えた授業づくり。 ○社会に出ても困らない為にも基礎学力だけはしっかりと学ばせて欲しい。 ○生徒1人ひとりにあわせ、多くの科目を少人数でやりくりをしているかと思うと先生方の努力なしでは達成するのが大変な状況で、指導していると思うとすばらしい事です。					
	生徒指導	1 高校生としての自覚ある基本的な生活習慣の確立	①全教職員が気持ちの良い挨拶の励行や、生徒の基本的な生活習慣の確立に向けた指導を継続して行う。	A	B	■全教職員が気持ちの良い挨拶を継続して行う。 ■基本的な生活習慣の確立のために、普段から指導するだけでなく、必要に応じて保護者との連携を図る。	A	B
		2 いじめ根絶を目指した心の教育の充実	②組織的にいじめの未然防止に努めるとともに、アンケートや生徒との対話によるいじめに関する情報収集に努める。	A	A	■全教職員が日常の生徒の会話や表情等の観察に努め、職員間で生徒の情報交換を密に行い、いじめの未然防止に努める。	A	A
		3 通級指導等、特別支援教育に係る研修の充実	③効果的な支援ができるよう、外部機関とのより一層の連携を図り、教職員が知識理解を深められるよう校内研修を充実させる。	A	B	■外部の専門機関や保護者と連携しながら、効果的な支援ができるように努める。職員間の情報共有を密に行う。 ■教員が知識・理解を深められるよう校内外での研修を今後も継続する。	A	A
		4 高校生としての規範意識の涵養を図る	④全教職員が「生徒理解」と「進路指導」を指導の柱とするゆるぎない信念と共通 実践のもと、生徒の自律の心や社会で自立し共生できる力を育む指導を行う。	A	B	■生徒が卒業後の社会の中で自立し共生できるよう、学校生活の中で公共の場でのふるまいについて指導を行う。	A	A
	学校関係者の意見		○個々の生徒とのかかわりを大事にし、日頃から生徒-担任の文章等をつうじたりとりも大事にして欲しい。 ○アンケートからも、生徒の規律が良くなっている事が評価できる。 ○生徒が楽しく学校生活を送っているように思いますので、とても良いです。社会人として基礎となる行動が出来る様になっていれば、尚良しだと思います。					
	進路指導	1 総合学科の特色とSDGs理念に基づいた特色あるキャリア教育の推進	①これまで実践してきたキャリアプログラムの内容を精査し、さらに充実したプログラムの構築を図る。	B	B	■探究活動等を通して、自分の将来と学校での学びを結びつけられるような学習活動を展開する。	B	B
		2 生徒の実態に応じた進路指導の体制構築	②生徒一人ひとりの進路目標の実現に向け、個別のニーズに応じた指導計画を立て、教職員が一丸となって指導・支援する体制を作る。	A	B	■生徒と積極的にコミュニケーションをとることで、個々のニーズに合わせた進路指導を行い、進路実現を目指す。	A	B
			③早い段階から、自己実現に向け積極的に自分を高めようとする姿勢を育てる。	A	B		A	B
	3 グローバルな視野を育て、共生社会の実現を意識付ける	④全職員が当事者意識を持って得意分野を生かすことで、学校及び地域の人材や施設を活用した効果的な教育活動を実践する。	A	A	■地域の人材や教員個々の能力を十分に発揮できるような教育活動を、次年度も継続して行っていく。	A	A	
学校関係者の意見		○自分は○○を大事にした人生を。それには○○進路がある。その上で具体的に話しあい、体験が必要では。 ○校舎外でもきちんと挨拶ができる生徒が多い。 ○社会及び職業を知る上でインターンシップは重要であり進路決定時には効果的だと思います。 ○総合学科だから出来る事をフル活用しているのがとても良いと思います。						

4	自由記載欄
○次年度は留高にとって最後の年。最後をしめくくるにふさわしい取組を期待しています。 ○近年の総合学科発表会に参加して感じな事は、その内容が年々充実し質の高い発表となってきており、生徒の1年1年の成長が感じられます。また、生徒や保護者のアンケートからも、規律を以て生徒たちが嬉々として学校生活を送っている事も伺う事ができました。これらの背景には、教職員の方々の皆さまでの熱意と指導力とご苦労がある事を忘れてはなりません。閉校まで残すところあと1年となってきましたが、教職員の皆さまにおかれましては、これまで同様、来年度3年生になる生徒が胸を張り有終の美を飾って卒業できますよう心からお願いいたします。 ○校長先生をはじめ諸先生方、私が見ている限り、後1年で閉校する留辺葉高校、一生懸命頑張っている姿に感謝致します。最後、美のある1年になる事を祈っております。 ○生徒の中には閉校という事でモチベーションが下ががる事も考えられるので、より一層のフォローアップをお願いします。 ○SNSやネットでの問題の指導をお願いします。例えば「AIはすべては解決できない」「ネットにあふれる情報を鵜呑みにはしない」「正しい事を正しいと主張しても必ずしも全員の人が受け入れるわけではない」等々を取り上げて話したらどうでしょうか。 ○残り一年となり、さみしさもあるのですが、最後の卒業生を出すまで頑張ってください！留高に来て良かったと思える一年であってほしいです。	